

2024 年度 通常総会議事録

表記の総会が、2024 年 5 月 9 日 (木) 17 時 45 分より九州大学医学部百年講堂とオンライン (Zoom) のハイブリッドにて、瀬尾会長を議長として開催された。出席者 29 名 (内訳：現地 20 名、オンライン 9 名) に委任状により表決権を委任した者 140 名 (議長委任 140 名) を加え出席者は 169 名であることから、出席者が 2024 年 3 月 31 日の正会員数 423 名の 10 分の 1 以上となり、会則第 15 条により総会は成立した。以下の事項が報告・承認された。

I. 応用統計学会 2023 年度 事業報告 (2023. 04. 01～2024. 03. 31)

1. 概況

2023 年度は、瀬尾 隆 会長・渡辺美智子 副会長と 13 名の理事、および松浦正明、水田正弘の両監事の体制で活動した。

財務状況は赤字であった。

2023 年度中の会員の入会、退会状況は、入会者数 20 名 (内訳：正会員 13 名、学生会員 7 名)、退会者数 26 名 (内訳：正会員 21 名、学生会員 5 名) であった。また、学生会員から正会員への変更は 5 名、正会員からシニア会員への変更は 1 名、正会員から名誉会員への変更は 1 名、除籍者 3 名 (内訳：正会員 3 名) であった。

この結果、会員数は 2023 年度末現在で 423 名である。内訳は正会員 389 名、学生会員 21 名、シニア会員 1 名、名誉会員 12 名である。また、賛助会員 6 社、機関・団体購読は 29 件である。

正会員、学生会員と名誉会員を足した会員数の推移は次のとおりであり、会員増への方策の検討が必要である。

	2017 年度末	2018 年度末	2019 年度末	2020 年度末	2021 年度末	2022 年度末	2023 年度末
会員数	451 名	426 名	432 名	437 名	422 名	432 名	423 名

2. 総会の開催

2023 年 4 月 22 日 (土) 18 時 00 分より北海道大学学術交流会館講堂とオンライン (Zoom) のハイブリッドにて、瀬尾 隆 会長を議長として開催された。出席者 40 名に委任状により表決権を委任した者 116 名 (議長委任 116 名) を加え出席者は 156 名であることから、出席者が 2023 年 3 月 31 日 (木) の正会員数 432 名の 10 分の 1 以上となり、会則第 15 条により総会は成立した。

3. 評議員会

2023 年度の定例評議員会は、オンライン会議 (Zoom) によって 2023 年 4 月 17 日 (月) に開催した。出席者 23 名に委任状により表決権を委任した者 7 名を加え出席者は 30 名となった。評議員の現在数は 30 名であることから、出席者が過半数を超え、会則第 24 条により評議員会は成立した。富澤貞男 氏を議長に選出し、総会に付議する事項等の審議と報告などが行われた。

2024 年 1 月 24 日 (水) にはオンライン会議 (Zoom) にて臨時評議員会を開催した。出席者 17 名に委任状により表決権を委任した者 13 名を加え出席者は 30 名となり、出席者が過半数を超え、会則第 24 条により評議員会は成立した。瀬尾 隆 氏を議長として、理事の人数変

更に係る会則第 25 条, 細則第 12 条の改訂等の審議が行われ, 細則第 12 条の改訂が承認された。

4. 理事会

対面と Zoom のハイブリッドによる理事会を 9 回 (2023 年 4 月, 5 月, 6 月, 8 月, 10 月, 12 月, 2024 年 1 月, 2 月, 3 月) 開催し, 学会の運営に関する事項, 会員の入退会に関する事項, 学会などの後援や協賛に関する事項について審議した。

5. 機関誌編集

「応用統計学」Vol.51 の No.3, Vol.52 の No.1 と No.2 の 3 冊を発行した。掲載原稿は, Vol.51 の No.3 では 2 編 (原著論文 2), Vol.52 の No.1 では 4 編 (フォーラム 2, エッセイ 2), Vol.52 の No.2 が 3 編 (研究ノート 1, 原著論文 2) である。総ページ数の推移は次のとおりである。

巻	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
総ページ数	122	176	128	104	162	155	137	115	137.4
論文数*	11	8	5	5	11	8	8	7	7.9

*掲載された記事の数 (総合報告, 研究論文, 原著論文, 覚え書き, 事例研究, 統計計算, フォーラム, 研究ノート, エッセイ)

6. 応用統計学会論文賞の選考

「応用統計学」に掲載された論文から選考し, 以下のように学会論文賞を 2023 年度年会の学会賞表彰式にて授与した。また, 受賞記念講演を 2023 年 9 月の連合大会で開催された企画セッション内で実施した。

優秀論文賞: 佐藤健一

経時測定データに対する非負値行列因子分解によるソフトクラスタリングについて,
51 (1&2), 1-18.

奨励論文賞: 田中智大 (共著者: 北野利一)

多変量極値分布の大規模アンサンブルデータへの適用-2 流域の極端洪水の同時生起確率推定, 50 (2&3), 75-101.

7. 年会

2023 年度年会を 2023 年 4 月 22 日 (土) に北海道大学学術交流会館講堂とオンライン (Zoom) のハイブリッドで開催した。

4 月 21 日 (金) に日本計量生物学会主催による「統計的因果推論の基本と応用」をテーマとしたチュートリアルセミナーにおいて, 高橋将宜 氏 (長崎大学情報データ科学部) による講演が行われた。参加者は延べ 389 名 (応用統計学会, 日本計量生物学会会員: 257 名, 非会員: 61 名, 学生: 71 名) であった。

年会では, 一般講演 6 件, 特別講演 2 件, 学生セッション 5 件, ポスターセッション 7 件の発表が行われた。学生セッションの中から最優秀発表賞 1 名と優秀発表賞 1 名を選出し, ポスターセッションの中から優秀ポスター発表賞 3 名を選出した (*が受賞対象者)。

・最優秀発表賞

*桃崎智隆・中川智之 (東京理科大学)

ダイバージェンスによる ordinal response model における外れ値に対するロバスト性

- ・優秀発表賞
 - *若山智哉 (東京大学)・菅澤翔之助 (慶應義塾大学)
 - 時空間関数データのベイズ型因子モデルと人口マップ予測への応用
 - ・優秀ポスター発表賞
 - *小林実結・篠田 覚・三枝祐輔・山本紘司 (横浜市立大学)
 - スクリーニング検査の性能評価における優越性および非劣性検定を組み合わせた新たな解析手法
 - *小谷朋也・姫野哲人 (滋賀大学)
 - 自動車補修部品受注予測モデルの検証
 - *浦崎 航・桃崎智隆・中川智之 (東京理科大学)・富澤貞男 (明星大学)
 - 分割表における f-divergence による独立性の逸脱度と潜在分布の関係
- 参加者は延べ 104 名 (会員 57 名, 非会員 13 名, 学生 25 名, 日本計量生物学会会員 9 名) であった。
- 参加者数の推移は次のとおりである。

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年	2022 年	2023 年
参加者数	71 名	55 名	43 名	66 名	中止	115 名	109 名	104 名

8. 応用統計シンポジウムの開催

応用統計シンポジウム 2023 を 2023 年 11 月 15 日 (水) に Zoom によるオンラインで開催した。参加者数は 125 名 (会員 26 名, 非会員 55 名, 学生 44 名) であった。講演は以下のとおりである。

第 1 セクション『推薦システム』

廣瀬英雄 氏 (中央大学研究開発機構 教授)

「推薦システムの多彩な世界」

大羽成征 氏 (ミイダス株式会社 シニアリサーチャー)

「HR (Human Resources) 領域の推薦システム」

第 2 セクション『カルマンフィルタ』

野村俊一 氏 (早稲田大学大学院会計研究科 准教授)

「状態空間モデルを用いた時系列解析」

高須佑哉 氏 (住友生命保険相互会社 主計部数理室)

「状態空間モデルを用いた死亡率モデルの拡張」

なお、共催・後援団体は以下のとおりである。

共催：共立出版 株式会社

後援：一般財団法人 日本統計協会, 統計関連学会連合, 一般社団法人 日本品質管理学会,
東京理科大学データサイエンスセンター

9. 応用統計学フロンティアセミナーの開催

応用統計学フロンティアセミナー「デジタル時代における AI・応用統計学の潮流と人材育成・高等教育改革」を 2024 年 1 月 28 日 (日) に東京理科大学神楽坂キャンパス 2 号館 212 教室及び Zoom によるハイブリッドで開催した。参加者数は 173 名 (対面：56 名, オンライン：135 名) であった。講演は以下のとおりである。

石川正俊 氏 (東京理科大学学長)

「データサイエンスから知能システムへ」

津本周作 氏 (一般社団法人 人工知能学会会長, 島根大学教授)

「AI 研究の動向と新たな方向性」
 西内 啓 氏 (株式会社データビークル共同創業者)
 「企業におけるデータ活用のボトルネックとその解消方法」
 なお、共催・後援団体は以下のとおりである。
 共催：東京理科大学
 後援：一般社団法人 人工知能学会，一般財団法人 日本統計協会，
 一般社団法人 日本品質管理学会，統計関連学会連合，統計数理研究所

10. 統計関連学会連合大会

統計関連学会連合大会を 2023 年 9 月 3 日 (日)～7 日 (木) に京都大学で開催した (主催：応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会)。会場で応用統計学会の広報のブースを設営した。

参加者数は延べ 1,772 名 (チュートリアル参加者数 326 名，市民講演会参加者数 392 名，本大会参加登録者数 1,054 名) であった。本学会の企画セッションとして，応用統計学会学会賞受賞者講演 (オーガナイザー：南美穂子 (慶應義塾大学)，星野崇宏 (慶應義塾大学)) と，応用統計学会企画セッション「高次元統計解析の最近の発展」(オーガナイザー：西山貴弘 (専修大学，山本紘司 (横浜市立大学)) を行った。

大会参加者総数とチュートリアルセミナー参加者の推移は次のとおりである。

年 度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
大 会	1,275 名	1,114 名	1,448 名	1,402 名	1,405 名	1,772 名
チュートリアルセミナー	143 名	143 名	335 名	384 名	271 名	326 名

※ 2023 年の数字は統計関連学会連合のウェブページでの報告

11. 関連学会等との後援・協賛事業

合計 4 件 (後援 3 件，協賛 1 件)

2023 年度に後援・協賛した行事は次のとおり。

- ・ 慶應義塾大学 SFC 研究所 第 17 回データビジネス創造コンテスト (後援)
- ・ 慶應義塾大学 SFC 研究所 第 18 回データビジネス創造コンテスト (後援)
- ・ The 8th Japanese-German Symposium on Classification (第 8 回日独分類シンポジウム) (後援)
- ・ 日本 TRIZ 協会 第 19 回日本 TRIZ シンポジウム 2023 (協賛)

12. 関連学会等への協力と協調

以下の各連合組織に当学会より担当する理事又は特別任務を担当する学会員を指名し，各委員会に出席するなど協調を行った。

(1) 統計関連学会連合

理事会 (理事：瀬尾 隆 会長，渡辺美智子 副会長)

事業委員会 (富澤貞男 理事)

統計教育推進委員会 (藤井良宣 会員)

(2) 統計関連学会連合大会

2023 年度大会

組織委員会 (瀬尾 隆 会長，渡辺美智子 副会長)

プログラム委員会 (山本紘司 理事，西山貴弘 理事)

運営委員会 (篠田 覚 会員)

- (3) 一般社団法人 日本計量生物学会
2023年度日本計量生物学会年会を後援, チュートリアルセミナーを共同主催
- (4) 横断型基幹科学技術研究団体連合
2023年度 代議員 (渡辺美智子 副会長)
- (5) 統計教育連携ネットワーク
連携学会として参加
- (6) リスク研究ネットワーク
機関メンバーとして参加
- (7) 統計検定 (一般財団法人 統計質保証推進協会)
協賛学会として協力
- (8) 一般社団法人 データサイエンティスト協会
特別会員として協力

13. ホームページおよびメーリングリストの充実

ホームページを逐次更新し, 学会員への情報公開を円滑にした. また, メーリングリストによる情報公開を行った.

14. 学会公式Xの開設

X (旧 Twitter) を開設し, 各種イベントなどに関する情報発信を行った.

15. 情報誌

学会員の情報交換や意見交換になる情報誌「応用統計学会 information」のNo.6とNo.7を学会ホームページ上に掲載した.

16. 名誉会員

2023年度の名誉会員については, 公募の結果, 川崎 茂氏が名誉会員となった. 2024年度の名誉会員についても, 2023年度中に公募を行った.

17. コトづくりコレクションへの推薦

2022年度のコトづくりコレクションを理事会として承認し, 学会から推薦した林の数量化が登録された.

18. 会費滞納者への対応

長期会費未納者に対して, 除籍処分を行った.

その他の事業については応用統計学会のホームページをご覧ください.

Ⅱ. 2023年度会計報告

応用統計学会会則に基づき、2023年4月1日より2024年3月31日までの会計経理を報告する。

1. 収入の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 会費収入	2,030,000	2,010,000	20,000
(1) 正会員	1,855,000	1,845,000	10,000
(2) 名誉会員	7,500	10,000	△ 2,500
(3) 学生会員	45,000	55,000	△ 10,000
(4) 賛助会員	120,000	100,000	20,000
(5) シニア会員	2,500	0	2,500
2. 雑誌売上収入	240,000	210,000	30,000
3. 広告料	90,000	90,000	0
4. 掲載料	140,000	250,000	△ 110,000
5. 年会等関係収入	876,632	850,000	26,632
(1) 年会収入	} 344,932	250,000	△ 55,068
(2) チュートリアル収入		150,000	
(3) フロンティアセミナー収入		0	
(4) シンポジウム収入		531,700	
6. 雑収入(著作権料・利息等)	111,975	100,000	11,975
当期収入合計	3,488,607	3,510,000	△ 21,393
前期繰越金	6,503,852	6,503,852	0
収入合計	9,992,459	10,013,852	△ 21,393

2. 支出の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 機関誌関係費	1,562,899	1,690,000	△ 127,101
(1)印刷費	1,156,100	1,200,000	△ 43,900
(2)校正費	258,000	340,000	△ 82,000
(3)通信・発送費	148,799	150,000	△ 1,201
2. 年会等関係費	1,050,305	770,000	280,305
(1)年会支出	826,833	350,000	476,833
(2)チュートリアル支出	0	50,000	△ 50,000
(3)フロンティアセミナー支出	59,689	100,000	△ 40,311
(4)シンポジウム支出	163,783	270,000	△ 106,217
3. 管理費	1,294,236	1,227,000	67,236
(1)事務委託費	750,000	750,000	0
(2)消耗品費	147,807	90,000	57,807
(3)会議費	40,719	60,000	△ 19,281
(4)雑費	152,486	160,000	△ 7,514
(5)事務合理化費	20,900	17,000	3,900
(6)選挙費	182,324	150,000	32,324
4. 役員旅費補助	0	100,000	△ 100,000
5. 関連学会協調事業費	70,000	70,000	0
(1)関連学会年会費	20,000	20,000	0
(2)横幹連合年会費	50,000	50,000	0
(3)連合大会企画セッション支出	0	0	0
6. 学会賞	68,963	60,000	8,963
7. 謝金	140,000	40,000	100,000
8. 「学会ホームページ」改修費	0	700,000	△ 700,000
当期支出合計	4,186,403	4,657,000	△ 470,597
【参考】当期収支差額	△ 697,796	△ 1,147,000	449,204
次年度繰越金	5,806,056	5,356,852	449,204
支出合計	9,992,459	10,013,852	△ 21,393

2024年度への繰越金の内訳

項目	2023年3月31日現在	2024年03月31日現在
銀行預金	699,555	583,150
郵便振替	5,804,297	5,222,906
合計	6,503,852	5,806,056

会計監査報告書

応用統計学会 殿

応用統計学会会則に基づき、2023年4月1日から2024年3月31日までの会計経理を監査した結果、会計報告のとおり相違ないことを認めます。

2024年4月8日

監事

水田 正弘 ⑩
松浦 正明 ⑩

※会計監査書類原本には署名と捺印がされています。

Ⅲ. 応用統計学会 2024 年度 事業計画(2024.04.01～2025.03.31)

1. 機関誌の発行

「応用統計学」Vol.53 の No.1 と No.2 を発行する。

2. 情報誌の発行

「応用統計学会 information」No.8 と No.9 を発行し、ホームページに掲載する。

3. 応用統計学会論文賞等の授与

「応用統計学」に掲載された論文の中から優秀な論文に学会賞（優秀論文賞，奨励論文賞）を授与する。また年会の学生セッション（口頭発表）の中から最優秀発表賞と優秀発表賞，ポスターセッションの中から優秀ポスター発表賞を授与する。優秀論文賞と奨励論文賞の各受賞者は統計関連学会連合大会における企画セッションで講演を行う。

4. 年会の開催

2024 年の 5 月 9 日（木）に九州大学医学部百年講堂とオンライン（Zoom）のハイブリット開催の予定である。また、5 月 10 日（金）にはチュートリアルを開催予定である。なお、2025 年度年会の開催場所の選定は日本計量生物学会が担当する予定である。

5. 応用統計シンポジウム等の開催

2024 年度のシンポジウム等のテーマ，時期および開催場所については検討中である。

6. 応用統計学フロンティアセミナーの開催

2024 年度のフロンティアセミナーのテーマ，時期および開催場所については検討中である。

7. 統計関連学会連合大会での企画セッション

2024 年度統計関連学会連合大会（応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会が主催）が 2024 年 9 月 1 日（日）～5 日（木）に東京理科大学神楽坂キャンパスで開催される予定である。企画セッションとして当学会は、

- 「欠測データ解析の理論と応用」（オーガナイザー：西山貴弘（専修大学），山本紘司（横浜市立大学），首藤信通（神戸薬科大学））
- 応用統計学会学会賞受賞者講演（オーガナイザー：星野崇宏（慶應義塾大学），南美穂子（慶應義塾大学））

を企画運営する。

8. 研究集会

必要に応じてその他の研究集会を開催・支援する。

9. 学会員への情報公開

ウェブページやメーリングリストを活用して，学会員への情報公開を有効かつ円滑に行う。

10. 広報活動

会員の募集のための広報活動を，X や連合大会（ブースの設置）など適切な媒体を使って行う。

1 1. 学会ホームページ

更なる機能向上を目指し、学会のホームページを更新する予定である。

1 2. 関係学会等との協調

以下の団体への加盟を継続し協力すると共に、その他関係学会との協調を促進する。

- (1) 統計関連学会連合
- (2) 日本計量生物学会
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）
- (4) 統計教育連携ネットワーク
- (5) リスク研究ネットワーク
- (6) 統計検定（一般財団法人 統計質保証推進協会）
- (7) データサイエンティスト協会

1 3. 名誉会員

名誉会員の公募と選考を行う。

1 4. 理事会, 評議員会, 総会の開催

評議員会は2024年4月30日（火）にオンライン（Zoom）開催する。総会は年会終了後に開催し、年会をハイブリッド開催とするため、総会もハイブリッドでの開催とする。

また理事会はハイブリッドやオンライン（Zoom）、メール等によって必要に応じて開催する。

以上

IV. 2024年度予算案

1. 収入の部

勘定科目	2023年度予算	2023年度実績	2024年度予算
1. 会費収入	2,010,000	2,030,000	2,025,000
(1) 正会員	1,845,000	1,855,000	1,845,000
(2) 名誉会員	10,000	7,500	10,000
(3) 学生会員	55,000	45,000	47,500
(4) 賛助会員	100,000	120,000	120,000
(5) シニア会員	0	2,500	2,500
2. 雑誌売上収入	210,000	240,000	180,000
3. 広告料	90,000	90,000	60,000
4. 掲載料	250,000	140,000	250,000
5. 年会等関係収入	850,000	876,632	1,430,000
(1) 年会・チュートリアル収入	400,000	344,932	900,000
(2) フロンティアセミナー収入	0	0	0
(3) シンポジウム等収入	450,000	531,700	530,000
6. 雑収入(著作権料・利息等)	100,000	111,975	100,000
当期収入合計	3,510,000	3,488,607	4,045,000
前期繰越金	6,503,852	6,503,852	5,806,056
収入合計	10,013,852	9,992,459	9,851,056

・1. 会費収入 …… 個人会員の会費納入率を過去の実績に基づき93%として以下のように算出

(1) 正会員 …… 369名(397名×0.93)×5,000円=1,845,000円

(2) 名誉会員 …… 4名×2,500円=10,000円(原則、会費は無料であるが、発送希望者約4名分は会費が必要。)

(3) 学生会員 …… 19名(20名×0.93)×2,500円=47,500円

(4) 賛助会員 …… 6件×20,000円=120,000円

(5) シニア会員 …… 1件×2,500円=2,500円

・2. 雑誌売上収入 …… 30件×6,000円=180,000円として算出

・3. 広告料 …… 2号分(Vol.53, No.1, No.2)を発行予定として60,000円で算出

・4. 掲載料 …… 過去の実績に基づき算出

・5. 年会等関係収入

(1) 年会・チュートリアル収入 …… 年会収入は2022年度と2023年度の実績及び2024年度より参加費を値上げしたに基づき算出
チュートリアル収入は2022年度(応用統計学会主催)の実績(536,722円)に基づき算出

上記の年会収入とチュートリアル収入を合わせて計上

(2) フロンティアセミナー収入 …… 2024年度は会費無料予定のため、収入は0円

(3) シンポジウム等収入 …… 2023年度シンポジウムの実績に基づき算出

・6. 雑収入 …… 過去の実績に基づき算出

2. 支出の部

勘定科目	2023年度予算	2023年度実績	2024年度予算
1. 機関誌関係費	1,690,000	1,562,899	1,640,000
(1)印刷費	1,200,000	1,156,100	1,200,000
(2)校正費	340,000	258,000	340,000
(3)通信・発送費	150,000	148,799	100,000
2. 年会等関係費	770,000	1,050,305	1,320,000
(1)年会・チュートリアル支出	400,000	826,833	1,050,000
(2)フロンティアセミナー支出	100,000	59,689	100,000
(3)シンポジウム等支出	270,000	163,783	170,000
3. 管理費	1,227,000	1,294,236	1,087,000
(1)事務委託費	750,000	750,000	750,000
(2)消耗品費	90,000	147,807	90,000
(3)会議費	60,000	40,719	60,000
(4)雑費	160,000	152,486	160,000
(5)事務合理化費	17,000	20,900	17,000
(6)選挙費	150,000	182,324	10,000
4. 役員旅費補助	100,000	0	100,000
5. 関連学会協調事業費	70,000	70,000	70,000
(1)統計関連学会連合年会費	20,000	20,000	20,000
(2)横幹連合年会費	50,000	50,000	50,000
6. 学会賞	60,000	68,963	60,000
7. 謝金	40,000	140,000	100,000
8. 「学会ホームページ」改修費	700,000	0	500,000
小計	4,657,000	4,186,403	4,877,000
9. 予備費	5,356,852	5,806,056	4,974,056
当期支出合計	10,013,852	9,992,459	9,851,056

- ・1. 機関誌関係費・・・2号分(Vol.53, No.1, No.2)として以下のように算出
 - (1)印刷費・・・過去の実績に基づき算出
 - (2)校正費・・・2号分(Vol.53, No.1, No.2)の240,000円とJ-STAGEデータ作成費100,000円
 - (3)通信・発送費・・・過去3年間の平均に基づき算出
- ・2. 年会等関係費
 - (1)年会・チュートリアル支出・・・年会支出は2022年度と2023年度の実績に基づき算出
チュートリアル支出は2022年度(応用統計学会主催)の実績(447,816円)に基づき算出
上記の年会支出とチュートリアル支出を合わせて計上
 - (2)フロンティアセミナー支出・・・2023年度の実績を考慮して算出
 - (3)シンポジウム等支出・・・2023年度シンポジウムの実績に基づき算出
- ・3. 管理費・・・基本的に過去3年間の平均に基づき算出
 - (3)会議費・・・2023年度の実績に基づき算出
 - (6)選挙費・・・選挙の行われないう2022年度実績に基づき算出
- ・4. 役員旅費補助・・・過去の実績に基づき算出
- ・5. 関連学会協調事業費・・・統計関連学会連合年会費20,000円と横断型基幹科学技術研究団体連合年会費50,000円で算出
- ・6. 学会賞・・・優秀論文賞(30,000円), 奨励論文賞(10,000円), 名誉会員証, 賞状, 証書フォルダ等
- ・7. 謝金・・・シンポジウム等での講演者への謝金
- ・8. 「学会ホームページ」改修費・・・外部委託業者の見積りに基づき算出

V. 学会賞の報告

第1次選考, 第2次選考の結果, 以下の論文が選出された.

優秀論文賞:

Vol. 52, No. 2, 99-112. (2023)

「混合ウイシャートモデルに基づくマルチプル・クラスタリングによる低周波地震検出のための観測点選択」

徳田 智磯, 長尾 大道

奨励論文賞:

Vol. 51, No. 3, 109-123. (2022)

「階層ベイズモデルによる二項母集団の母比率の信頼区間の構成」

丸山 大輔 (共著者: 青木 敏)

VI. 名誉会員の推挙

宮川 雅巳 氏

推薦理由：

宮川雅巳氏は、応用統計学会役職として、1992-1993 年度に庶務理事、1994-1997 年度に副会長、2000-2001 年度に編集理事を務められ、本学会の発展に尽力された。宮川氏は、1989 年から東京理科大学、1996 年から東京大学、1997 年から東京工業大学に勤務され、優れた研究を積み上げられるとともに、多くの研究者を育成してこられた。宮川氏は、信頼性工学の研究、統計的因果推論の研究、タグチメソッドに関する研究を中心に、理論面と応用面の両面にわたり統計学の研究に従事してこられ、数多くの学術論文や専門書を発表された。特に、『グラフィカルモデリング』、『品質を獲得する技術』は、それぞれ統計的因果推論とタグチメソッドの分野でバイブル的な書籍として高く評価されており、広く読まれている。

これらは特筆すべきであり、応用統計学会名誉会員としてふさわしいと判断できる。

VII. 細則第 12 条改訂の報告と会則 25 条の改訂について

1. 会則（役員）第 25 条

本学会に次の役員を置く。

会長 1 名

副会長 1 名

理事 13 名以内

幹事 2 名

上記の理事の人数を下記のように改訂：

理事 16 名以内

2. 学会細則（4. 幹事・理事の選出）第 12 条

以下に掲げる職務分担の理事は、評議員会が、会長、副会長以外の正会員の中から推薦し、通常総会の承認を受けて選任される。また、理事の任期途中で欠員が生じた場合には、評議員会の承認により補充できる。ただし、後任者の任期は前任者の残任期間までとする。

庶務理事（定数 3）組織管理／会議・文書・総会／情報・広報

会計理事（1 名以上 2 名以内） 会計・経営管理

編集理事（1 名以上 2 名以内） 会誌の編集・出版

企画理事（1 名以上 4 名以内） 研究発表会、講演会、シンポジウム、各種研究会等の企画、調整

無任所理事（若干名） 理事会の決定による特別任務、地区連絡

監事候補者は、評議員会が、会長、副会長、理事以外の評議員の中から 2 名 互選のうえ総会に推薦する。監事は、通常総会の承認を受けて選任される。また、監事の任期途中で欠員が生じた場合には、評議員会の承認により補充できる。ただし、後任者の任期は前任者の残任期間までとする。

IIX. 会長・副会長・評議員選挙結果報告

投票締切日：2024年3月22日

開票日：2024年3月28日

1. 2024-2025年度の会長・副会長選挙結果

会長 南 美穂子
副会長 田畑 耕治

2. 評議員選挙結果 (31名)

地区代表評議員

北日本・北関東	荒木 由布子,	水田 正弘
南関東	松浦 正明,	山本 紘司
東海近畿	青木 敏,	姫野 哲人
西日本	川野 秀一,	坂本 亘

それ以外の評議員

會田 雅人, 安藤 宗司, 岩崎 学, 大西 俊郎,
川崎 玉恵, 栗木 哲, 黒木 学, 三枝 祐輔,
篠田 覚, 下平 英寿, 瀬尾 隆, 椿 広計,
富澤 貞男, 永田 靖, 西山 貴弘, 二宮 嘉行,
樋口 知之, 星野 崇宏, 松浦 峻, 森 裕一,
安井 清一, 山田 秀, 渡辺 美智子

以上

IX. 新理事の選出（2024-2025年度）

役職	氏名	所属
会長	南美穂子	慶應義塾大学
副会長	田畑耕治	東京理科大学
庶務（会議・文書・総会）理事	井本智明	静岡県立大学
庶務（情報・広報）理事	中川智之	明星大学
庶務（組織管理）理事	川崎玉恵	青山学院大学
会計理事	山本紘司	横浜市立大学
会計理事	岩本大輝	早稲田大学
編集理事	星野崇宏	慶應義塾大学
編集理事	松井秀俊	滋賀大学
企画理事	川野秀一	九州大学
企画理事	黒木 学	横浜国立大学
企画理事	三枝祐輔	横浜市立大学
企画理事	長尾大道	東京大学
無任所	鈴木督久	日経リサーチ
無任所	瀬尾 隆	東京理科大学
無任所	椿 広計	統計数理研究所
無任所	永田 靖	早稲田大学
無任所	渡辺美智子	立正大学

以上

X. 新監事の選出（2024-2025 年度）

監事 富澤貞男 明星大学

監事 栗木 哲 統計数理研究所

以上